

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・井上 写真・北村、後藤
山行番. NO. 2044、20224-1	
日 時 2023年11月11日(土)無風・晴	
山 域 雨乞岳(2037m)・水晶ナギ(1780m)	
コース A・雨乞班=長泉5:00-石尊神社駐車場発8:30-師匠ナギ分岐11:30-雨乞岳登頂12:16-下山開始12:54-水晶ナギ分岐13:25-石尊神社駐車場着15:30-長泉19:00-反省会 B・水晶ナギ班=ネギ分岐12:33-水晶ナギ12:41-分岐(昼食)-合流13:20	
標高差 上り・下り 石尊神社駐車場770m~雨乞岳2037m=1267m	
データ 長泉~石尊神社(小淵沢経由)約150km	
難易度 非常に困難 困難 Aレやや困難 普通 やや易しい 易しい	
素晴らしい紅葉としびれる急登	
参加者 ハイキング隊(水晶ナギまで):後藤、伊藤、松永 アルパイン隊(雨乞岳まで):井上、山田(敬)、北村 =6名	

6人が3人ずつ2隊に分かれ、ハイキング隊は水晶ナギまで、アルパイン隊は雨乞岳までとなった。私は、海外出張の疲れが残り、1か月ぶりの登山のため、ハイキングでリハビリ登山をしたかったが、毎度のスパルタ強行リハビリとなった。6月の出張明けの時は、足が上がらなくなって宝永山に登れず宝永第1火口底で自主撤退した。そんな記憶を引きずり、不安な登山だった。



石尊神社

モーレツ階段

長泉を出るころは雲模様で、山梨の晴れの予報が本当に当たるのか心配したが、紅葉が太陽の光でキラキラと光る素晴らしい天気になった。

石尊(せきそん)神社の駐車場には先客の車が3台あり、見慣れないキャリアをつけていた(のちにダウンヒル自転車用だとわかった)。神社の石の階段を登る。踏み代が狭く、段が高い。かつて見たことのない急な階段だ。下りで使うと滑って下まで落ちそうだ。太く高いアカマツ林の中を登り、神社に到着。

神社の左手に裏の尾根に行く道があった。人は歩いていないようなので恒例のバリバリ



ホウ葉お面

バリエーションのスタートとなった。ここでハイキング隊と別れ、アルパイン隊3人で先行する。しばらくすると雨乞岳への標識がある一般登山道に合流した。一安心。ここからはなだらかな登りが続く。落ち葉が溜まり、ガサゴソと音を楽しむ。クッションも良い。紅葉は見事で、息をのむ。

自転車で下りてくる男女3人組とすれ違う。上の小屋まで15kgの自転車を押して2時間登り、下りは自転車で30分下りるのだそうだ。小屋のある緩やかな尾根に出ると、背の低い笹原、葉っぱが全て落ちた木々の中をひたすら歩く。

左手に鳳凰三山のオベリスクが見えたり、甲斐駒の山頂が見えたりする。右後方には、真っ青な空の下に八ヶ岳が見える。出発して3時間歩き、水晶ナギ分岐に到着。いい加減疲れているが、お互いにそのことは口にしないようにしていた。

山田さんが口火を切ると、実は3人ともそこそこ疲れていることが判明。しかし、ここからが、今日のコースの本番である。雨乞岳頂上までは約250mの急登である。地図で見るとまあまあの等高線の込み具合だ。

コルから登りに入ると、徐々に角度が増し、目の前に壁があるように見える。この坂は雪が付いたらかなり苦労しそうな気がする。脚の全ての筋肉が悲鳴を上げるので、ゆっくりと登った。結構登ったつもりがまだ100mだったり、もう頂上かと思ったらまだあと100m残っていたりと、ずっと淡い期待を裏切られた。

頂上に近づくと先客の声が聞こえた。男二人、女一人、犬一匹、猫一匹の5名であった。



絶景ランド (撮影 5 枚・北村)



山頂



若手三羽鳥



別のコース（ビレッジ白州）から朝9時出発で来たらしい。犬は16歳で人間なら80歳の「紅葉（もみじ）」ちゃん、猫は7歳のブラックのアメショーの「四葉（よつば）」ちゃん。紅葉ちゃんは山梨百名山を何十座も登っているそうだ。

四葉ちゃんは、女性に赤ちゃん用（？）抱っこ袋に入れられて登ったそう。2匹ともおとなしく、首をかいてやると体重をかけてきた。次に16歳の少年を含む親子3人が、我々と同じコースで登ってきた。

後で聞くと、ハイキング隊は合わなかったということなので、ハイキング隊が水晶ナギ分岐から左に折れてから、この家族が雨乞岳に登ってきたようだ。昼ご飯を食べ、3人と2匹のグループと写真を撮り合い、下山開始。

水晶ナギ分岐に着くと、奇跡的にタイミングが合ったハイキング隊と合流した。大きなカメラを持ったトレランの若い男性とすれ違う。今から雨乞岳に行くという。日が暮れると心配すると、30分で登れると言うが、私たちは信じられなかった。下りでも紅葉を全身で味わうことができた。

幅の広い落ち葉ザックザク道は、昔、馬で切り出した木材を運んだ馬搬（ばはん）道というようだ。最後は神社に行かず、登山道を進んだ。林道に出ると、神社の階段入り口のすぐ南側だった。ここで自転車を押して駐車場に向かう若い男性2人に会った。

聞くと、一人はダウンヒルのプロ選手で日本チャンプとアジアチャンプを獲得しているそうだ。チャンピオンの名前は清水一輝。2人は愛知県から来た。自転車は150万円とのこと。このコースは落ち葉が多く、スキーのキックターンのようにして下るそうだ。いいコースらしいが、有名になるとたくさんの方が来るので、あまり知られないようにしているらしい。

駐車場についても自転車の話をしていると、下りですれ違ったトレラン男性が駐車場に到着し、我々を驚かせた。聞くと、おとなりの富士宮から着ているとのこと。世の中には、頑張っている若い人がいっぱいだ。

長泉に19時に着き、男4人は下土狩の居酒屋満貫で大いに反省会をして22時に解散した。

[マウンテンバイクプロライダー清水一輝オフィシャルサイト \(lovespo.com\)](http://lovespo.com)

以上



マウンテンバイクプロライダー清水一輝



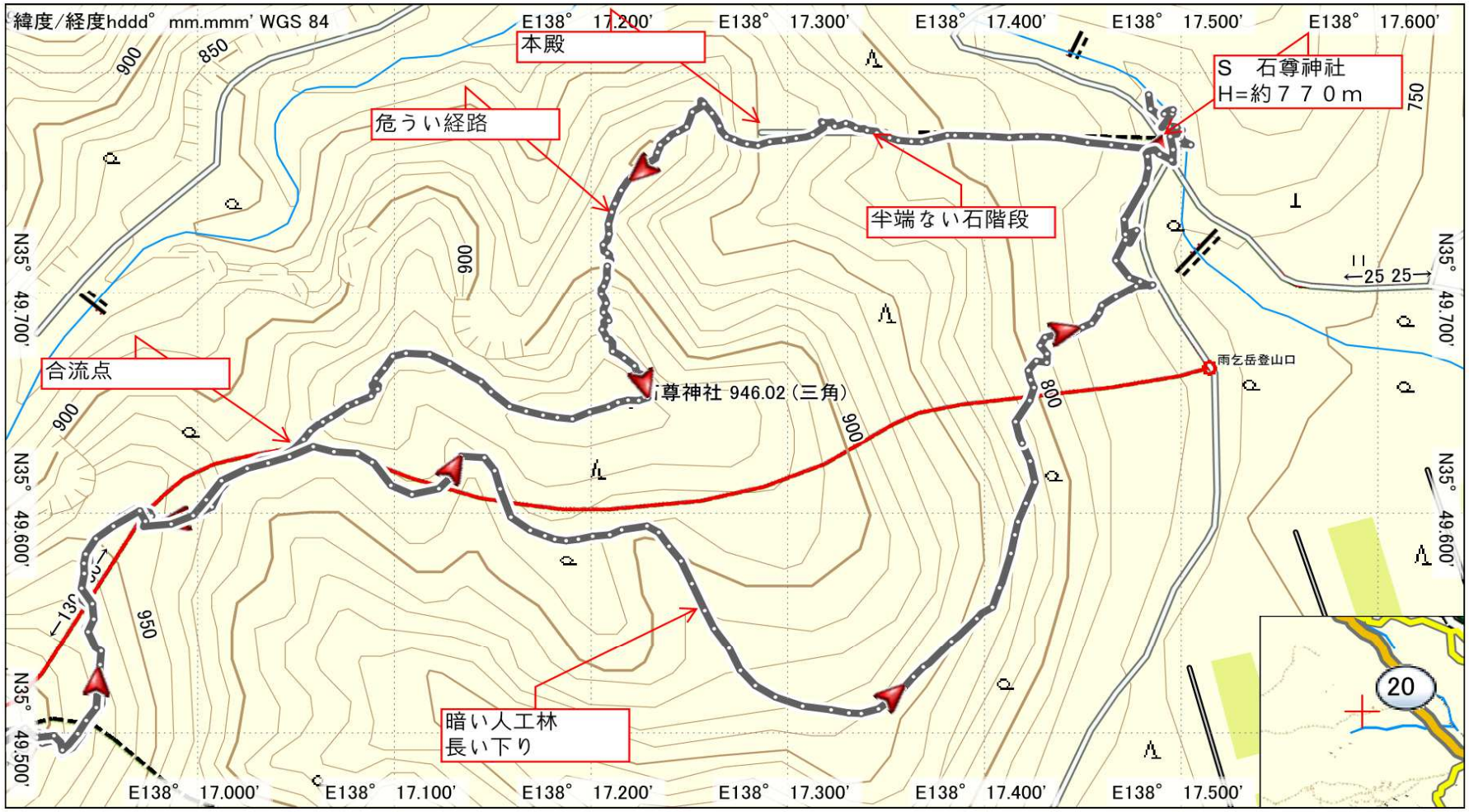
水晶ナギ分岐（撮影・北村）



作業小屋

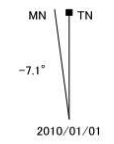
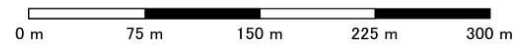
その他の記述（ごとう）

1. 雨乞山は、2001/12/08、石尊神社から上った。当時、上れたが、今回??だった。ヤママップなどは、神社から上る記録はなく、三角点 946m 峰南を巻く登山道がある。結果は、余り踏まれていない危なっかしい道だが、注意すれば問題はなかった。
2. 最初に会ったバイク三人組は、上から我々を見るや否や、先頭のリーダーが、「降車待機」と指示し全員、我々が通過するまで待機した。いやいや、若い人たちだったが、「礼儀正しい」人たちだった。背後には、「登山者とトラブルは避けたい」の姿勢がある。何処まで行ったか聞いたら、「上の小屋まで（標高 1601m）」だった。「頑張るね」と返したら、「登山程ではありません」と、あくまで謙虚で気持ち良い若い衆だった。
3. 標高点 1601m の小屋は、表示板では、「保安林内の土地の形質の変更行為の許可証」で、申請者は「サントリー・ホールディング KK」だった。思うに、「サントリー白州工場」の上流の沢の水質保全などの工事・作業を行っていると思われる。
4. 水晶ナギは、先日上った日向山からよく見える。2001 年は寄れなかったので、今回、初見参だった。日向山ほどの規模ではなかった。
5. I さんに頂いた、次郎カキは美味しかった。ご馳走様でした。



Japan Topo 10M Plus V3
 CanvasMapple Co., Ltd 2014
 Garmin Corporation 1995-2014

2023/11/15 9:58:10



GARMIN.